

SAIDAIJI JC REPORT



～心を受継ぎ、心を育み、心を繋げ～

基本方針

- 一、 継承していくもの進化させていくものを見極め、JC運動を行う
- 二、 青少年の心身育成
- 三、 地域の率先リーダーとしての自覚を持ち、会員の資質を向上する
- 四、 明るい豊かな社会の実現へ向けて、会員を拡大する



地域連携推進委員会委員 藤原辰徳

六月二日、『第五六回社会福祉ふれあいのつどい』が開催されました。例年の事ながら、障害者も健常者も高齢者も青年も園児も多数参加して頂きました。

県警の演奏や学生のアトラクションに一喜一憂する姿が印象的で、恒例の最終演目『うらじゃ総踊り』では会場が一つになり、『ふれあいのつどい』の本当の意味を目の当たりにする事が出来ました。

参加されたメンバーの皆さんも暑い中、本当にお疲れ様でした。

社会福祉ふれあいの集い

西大寺 青年会議所 広報誌

発行所

社団法人

西大寺青年会議所

発行責任者 小川大志

発行責任者 一井暎子

編集責任者 長谷川豪範

今の内容

社会福祉ふれあいの集い

七月例会

八月例会

創立五〇周年記念事業「瀬戸内市チャリティー映画祭」

瀬戸内チャリティー映画祭写真と参加者寄稿文

七月例会開催

今月の例会では、来る八月二日の「地域との交流を考える事業（吉井川源流体験ツアー）」の事業説明を地域連携推進委員会のメンバーより、現地の撮影した映像を用いて説明して頂きました。初の事業を開催するという事で、気合の入った事業説明となりました。



七月例会

親睦研修委員会委員長 塩崎鉄司

八月例会開催



八月例会

五〇周年記念式典・祝賀会を一ヶ月前にして、八月例会の例会アワードで「五〇周年記念式典・祝賀会の開催運営」について説明会を行いました。

流石に当日まで開催が迫ってくると、会議室も緊張感に包まれました。井上実行委員長の説明に熱

こもると、メンバーも一心に集中して話を聞き、最後の質疑応答まで、大変活き活きとした例会アワードになったように思います。

この周年で苦労しているのは、実行委員長を除く残り二〇名が周年開催運営に一人も携わった事が無く、様々な事に対して手探り状況である事です。他ロムの周年に積極的に出席し、ビデオ撮影をして参考にしているなど様々情報を集め準備を進めていますが、本当に分からない事ばかり。しかし、これらの「わからない」という事が逆に様々な良いご縁を頂ける事もありました。わからないが故に三〇周年や四〇周年をご経験されたOBの特別会員の皆様に色々とお話するのですが、これからのJCに對するあり方や、周年事業の進め方、こんな私達に叱咤激励して、成長を願ってくれるのです。そして、周年のご挨拶で理事長と共に歴代理事長の全ての先輩に直接お伺いさせて頂いたのですが、ここでも本当に良い勉強をさせて頂きました。周年を迎えず、相談する事もなければこんな経験をさせて頂く事も無かったです。

周年を行わなくてもJCは続くかもしれませんが。しかし、周年を行わなければ成長はありません。この五〇周年が私達を成長させてくれる最高の糧になる事を願っています。

副実行委員長 坪井綾広





創立50周年記念事業

瀬戸内市チャリティー映画祭

創立50周年記念事業「瀬戸内市チャリティー映画祭」の開催

二〇一〇年七月三日、二日、三日の三日間、現役会員全員の手で記念事業「瀬戸内市チャリティー映画祭」を開催しました。

今から五〇年前、地域を思う若き創立メンバーによって産声をあげた西大寺青年会議所は、明るい豊かな社会の実現という夢を五〇年間変わることなく継承し、ついに本年、記念すべき創立五〇周年を迎えることとなりました。

西大寺青年会議所の五〇年の総決算として過去の周年記念事業にも恥じることのない最高の記念事業を行うべく、昨年から幾度も会議を重ね、今、自分たちが地域の為に何ができるのか、何をすべきなのか、真剣に話し合い議論を重ねて参りました。

真剣に議論すればするほど意見は分かれ、内容はまとまらず、周年事業という船は何度も暗礁に乗り上げて、刻一刻と過ぎゆく時間の中で、暗中模索の苦しみの日々が続きました。

本当に大変な難産でしたが、特別会員の先輩方をはじめ、多くの地域住民の皆様に支えられて、やっとできた記念事業こそがこの「瀬戸内市チャリティー映画祭」だったのです。

それは、この地域に暮らす人々を対象に無料の映画会を開催し、感動の映画を楽しむ時間をプレゼントすると共に、当日ご来場頂いた皆様に呼びかけて、盲ろう者（目が見えず耳も聞こえない多重障がいを持つ方々）の皆様が少しでも暮らしやすい世の中であるようにとの願いを込めて、障がい者支援を呼びかける啓蒙活動と募金活動を行うというものでした。

当日は岡山盲ろう者友の会という団体の皆様も駆けつけて下さり、勇気をいただいたメンバーは、誠意をもって一生懸命に汗を流し、心豊かに人に優しい福祉とバリアフリーのまちづくりをめざして一心不乱に行動しました。良い映画は人の心を豊かにし、豊かな心は障がいを持つ人々を救う、これを強く信じて開催させていただいた記念事業は地域住民の皆様の大きな賛同を得て、実に三日間での総動員数が二三〇〇名を超えたといい大成功を収めました。

地域の皆様に感動をプレゼントするはずだった私達でしたが、ご参加いただいた方に「映画を見せてくれてありがとう」との涙がでるほど嬉しい言葉をいただいたり、人々の手から直に受け取る募金の重みによって、人を想う「心」を学ばせていただいた私達は、逆に最高の感動をいただきました。私は西大寺青年会議所メンバーとして、この記念事業にたずさわれたことを誇りに思います。

最後になりましたが、ご協力いただきました関係各位に心からの感謝の気持ちを述べさせていただきます。記念事業の報告とさせていただきます。本当にありがとうございます。

五〇周年実行委員会 実行委員長 井上裕嗣





発行に伴いご協力頂いた方々に
感謝致します。

発行日 平成二二年八月吉日

発行責任者 小川 大志

発行責任者 一井 暁子

編集責任者 長谷川 豪範

発行所 社団法人西大寺青年会議所



先日、小中高一貫校の映画鑑賞会「おとと」西大寺青年会議所創立50周年記念事業」に主人と孫の三人で参加しました。事前に別棟に住む孫兄弟を誘いました。小大の弟は題に惹かれて興味を示した。但し条件を付けて「行年小のふも年生も来たかな」との間に私達は何人かは来ているだろうという会話をしながら会場に入った。期待を裏切られた小大の孫は最後列の席へ行き、私達は前列の番目で見ると、人間愛にあふれた映画でした。終了後、会場を後にする時、孫の目が少しづつ人々を見えたと。それから帰宅途中車の中で孫曰く、「おじちゃんお母ちゃん次も又誘って僕も行くから」と、私達は顔を見合せて孫の成長を祈った。

ありがとうございます。

平成22年7月4日記